

文 化

第1節 概 要

県教育委員会では、豊かな風土と文化に支えられたうらおいのある生活の実現を求める県民の意識を背景に、先人の残した伝統的文化を継承しつつ、新しい文化を創造発展させるため、「伝統を生かし創造性をはぐくむ文化活動の推進」をスローガンに「文化活動の充実」、「文化活動指導者の養成確保」、「文化施設の整備充実」、「文化の伝承の充実」を4本の柱とし、県民の自主性と創意性を尊重しながら、文化活動を更に活発にするための条件整備を積極的に展開したが、その成果は次のとおりである。

1 文化活動の充実

(1) 地域文化活動の促進

県芸術祭は、主催行事に加えて各種の芸術文化行事の参加を得て、県内各地において実施され、地域の芸術文化活動の促進に大きな成果をあげた。

(2) 芸術鑑賞機会の充実

移動芸術祭をはじめ、こども・青少年芸術劇場、県展移動展など各種芸術鑑賞機会の充実に努めた。

(3) 芸術活動発表機会の充実

県展、県文学賞の実施と文化振興基金の利用を通じて、芸術文化活動発表機会の充実に努めた。

(4) 文化振興基金の活用

県民の文化活動の活発化に伴い、文化振興基金に対する利用件数も増加し、多くの県民の文化活動促進のための推進力となった。

2 文化活動指導者の養成確保

芸術セミナーを文学、彫塑、演劇、工芸、合唱の5部門で実施し、地域文化活動指導者の養成に努めた。

3 文化施設の整備

(1) 県立美術館、図書館の開設

昭和59年3月19日に建築工事を竣工した両施設は、4月1日、新公所として発足し、一般公開は7月22日より行われた。

(2) 県立博物館建設の推進

昭和55年度より設置された文化施設整備室は、昭和58年度には職員数も20名となったが、美術館担当学芸員の転出により、昭和59年度は15名をもって、博物館の建設、準備に努めた。

福島県立博物館収集展示委員による収集展示委員会2回、展示委員会1回、専門委員会4回、計7回の会議を開催し、映像資料計画、企画展構想、購入資料等の検討を行った。

また、建築工事は昭和59年7月7日に着工され、(株)清水建設仙台支店、(株)会津土建、(株)秋山建設の共同企業体により、昭和61年3月を完成目標に工事が進み、年度内の進捗状況

は、26.3%となった。

4 文化の伝承の充実

(1) 文化財指定調査等の推進

文化財の保護を図るため、文化財基礎調査(昔話・伝説の収録)をはじめ、歴史の道保存調査、猪苗代湖周辺の民俗文化財調査等を実施し、県内に所在する文化財の実態を把握するとともに、新たに7件(うち附指定1件)を県指定文化財に指定し、1件を指定解除した。

(2) 文化財保存の充実

指定文化財の保存修理、防災施設及び埋蔵文化財の発掘調査等の事業に対する助成を行うとともに、国・県営農用地開発に伴う開発地内遺跡の発掘調査及び記録保存を図るなど、文化財の保存の充実に努めた。

(3) 文化財活用の推進

文化財に対する理解を深め、愛護思想の高揚を図るため昨年度に引続き、県指定文化財の指定内容等を集録、解説した「福島県の指定文化財(要録)の写真撮影を実施した。

また、第34回県民俗芸能大会及び第5回県民謡まつりを開催した。

さらに、文化財保護強調週間(11月1日～7日)、文化財防火デー(1月26日)を通じ、文化財保護に対する啓蒙に努めた。

第2節 文化活動の促進

1 文化振興のための条件整備

(1) 文化行政の推進

① 市町村文化行政担当者的会議

ア 日 時 昭和59年5月9日

イ 会 場 県文化センター

ウ 参加者 123名

エ 内 容

(ア) 文化課、県立美術館及び県文化センターの事業概要

(イ) その他

② 芸術文化懇談会

本県文化の将来への発展のために、出席者より提言を求め、県民文化の振興並びに県文化行政推進の参考とした。

○第1回

ア 日 時 昭和59年8月24日(金)

イ 会 場 福島県全通会館

ウ 懇談事項 「県芸術祭のあり方について」

エ 出席者

渡辺良雄、高橋藤吉郎、桜井誠、竹田正夫、上野英四郎、川又恒一、五十嵐常三郎、今泉壮市、増田忍石、三瓶宏、丹野清栄、宝玉義信